

1 調査目的等

・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
 ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

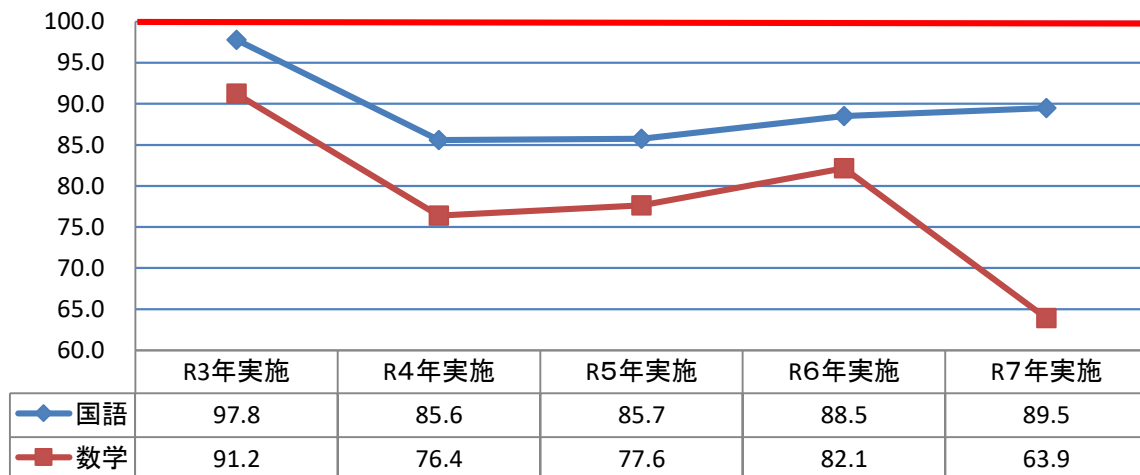
2 学校における学力向上に向けての取組

- 数学・外国語の授業において、C・D層の生徒に対して、習熟度別学習の実施
- 定期テスト前後のチャレンジタイム・フォローアップタイムの実施
- 毎日の朝学習の実施
- 各学期1回学習コンクール(英・数)の実施

3 調査結果(全国の平均正答数を100としたときの標準化得点)

	国語	数学
本校	89.5	63.9
嘉麻市	81.6	68.1
全国	100	100

推移



4 各学校における分析

朝学習やチャレンジタイム・フォローアップタイム・学習コンクールの取組では、その期間の学習内容の定着には効果があるのだが、長期的に見た場合学習内容の確実な定着をさせきれていない。定期的なくり返し学習する場を設定したり、家庭学習を工夫したりする必要がある。

国語科についてはCD層が6割で、自分の考えを文章にまとめて書くことや、相手に自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することなどの正答率がかなり低い。また、文脈に即した漢字を選ぶ問題についても、正しいものを選ぶことができていないなど、実生活での漢字を使った文章表記に課題がある。

数学科についてはCD層が7割で、基本的事項の定着が低い。また、数学的な表現を用いて説明したり、理由を説明することの正答率がかなり低く、無回答率も高い。

習熟度別学習においても個に応じた学習内容を設定し効果はあると考えられるが定期的なくり返し学習が不十分であり確実な基礎基本の定着に至っていない。

5 各学校における今後の取組

学習の進め方を自ら調整しながら取り組む重点単元の設定【新規】

- ・学びを子ども自ら管理し、進めることができる授業のグランドデザインをいかした授業改善
- ・教科ごとに単元づくりを中心とした授業研究

自己調整学習を取り入れた学習の進め方を活かした家庭学習の充実【新規】

- ・うすい家庭共有ノート(家庭学習時間や内容の振り返り)
- ・各学年、月ごとの学力向上目標に関連する自学
- ・チャレンジタイム・フォローアップタイムの実施
- ・チャレンジタイム・フォローアップタイムでの内容を取組後も定期的に各教科で振り返りを行う。

自己調整を取り入れた各教科の年間計画の作成【新規】

- ・3年間の授業実践の単元計画や指導案やワークシートを蓄積した教材集の作成と活用

PDCAサイクルを回す組織運営【新規】

- ・研究推進委員会内での検証サイクルの確立と役割の明確化
- ・学年部会で授業チェックリストや学び方スタンダードを活用した、結果の分析・取組の改善
- ・各教科における単元テストの結果についての分析と改善

鍛ほめ福岡メソッドに基づいた自己調整学習に関する校内研修の運営【新規】

- ・ワークショップやグループワークを取り入れた校内研修(単元づくりや指導案の検討会等)
- ・教科部会内での授業チェックリスト、学び方スタンダードを活用した毎月の教師の目標設定

6 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

○子どもが進んで問題解決を図る授業づくりを推進することで、主体的に取り組む態度とともに、思考力・判断力・表現力の育成を図る。

○小・中・義務教育学校とも、単元テストをもとに短いスパンで評価することを通して、一人一人の学習の定着状況を見とるとともに、個に応じた授業づくりを推進し、C・D層の子どもの学力向上を図る。

○家庭学習の充実や帯学習の取組など、組織的な学力向上の取組を構築することを通して、基礎基本の定着を図る。